

最近思うこと

ニコニコハウス鶴里・ヘルパーステーションわはは 浅井志朗

今年度より、今まで長くやらせていただいていた高齢者福祉の部門から、およそ 20 年ぶりに障害者サービスの部門に異動となりました。久しぶりの障害者サービス、法人の 20 周年、またニコニコハウス鶴里で実習生の担当をさせていただいて、自分も若い頃があったなあ、昔をふりかえることが多いこの頃です。

思えば、福祉の仕事をしたと思ったしつかりした理由もはっきりわからないまま飛び込んだ世界でした。誰かに福祉職を目指した理由を聞かれると「みんなの笑顔が見たいから」と漠然と答えました。そうすると「じゃあ、よしもとに行った方がいいんじゃない」とよく言われたものです。

また、大学生の前半の頃は「高齢者福祉だけはやりたくない」とずっと思っていました。関わった方々のすぐ先には「死」という別れが待っているというような寂しい思いからでした。そんな時、「人が生きるということは死につつあるということ。死にむかっているということ。それは赤ちゃんも老人も同じ」みたいな言葉に出会い、自分の今までの思いが変わっていきました。赤ちゃんも老人も障害者も健常者も、誰でも生きながらその時その時を楽しく充実して過ごしたいという思いは一緒なんだ、と思えるようになりました。縁あってこのあいだまで高齢者福祉に関わらせていただきましたが、高齢者の方々は人生の最後の方で充実した時間が過ごせるかどうか、そんな大事な時期に関わらせていただけるという重みとありがたみを感じながら、仕事させていただきました。

そして今、障害者サービスの職員として働かせていただいています。毎日を楽しく過ごすところで少しでも力になりたいと、その思いとしては変わらずやっているつもりです。上手くいかないこともあります。障害者も高齢者も違いは無いかなと改めて感じます。

また、実習生の方々と話して、「障害を持っていると言われても自分たちと一緒にいる人、最初は身構えて実習に来たが接してみれば普通に接することができた」「自分たちが何かしようと思うが、でも逆に障害を持っている皆さんに助けられたりしている」と感想が出ます。障害者に関わらず、高齢者でもそれは一緒に、職員が障害者・高齢者の皆様に支えられていることがあります。障害があってもなくても、若者でも高齢者でも、できることは自分でしてできないことはできる人が助け合いに支えていく、支え合いの精神だよと改めて思います。これは、ニコニコハウスの基本理念にも掲げられていることです。

自分が若いころに尊敬する福祉の先輩の方に福祉職に向いている人は？と聞いたことがあります。いただいた答えは「共に泣ける人」。私はまだまだかもしれません。

それはそうと、昔をふりかえり、一番思うこと。「昔は細かった…」。

（次回は 南区障害者基幹相談支援センター 桑原和子さん につなぎます。）

低料第三種郵便物許可

平成 年 月 日発行（増刊）

A J Uニコニコハウス通信（第 号）（ ）